

第1学年 道徳学習指導案

日 時：平成29年9月29日（金）5校時

児 童：第1学年

指導者：

1 主題名 きめたことはさいごまで【A-(5)希望と勇気、努力と強い意志】

2 資料名 りょうくと一りん車（学研）

3 主題設定の理由

(1) 価値について

低学年の内容項目A「主として自分自身に関すること」の(5)に「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。」とある。これは、自分の目標に向かい、困難や失敗には勇気をもって乗り越え、努力できることをねらいとする内容項目である。

この内容項目は、中学年の内容項目A(5)「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」、高学年の内容項目A(5)「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」、中学校の内容項目A(4)「より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。」に発展していくものである。

児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、自分の目標を持ち、その達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことをしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。忍耐力とは、ゴールまでの見通しを持つ力や必要な行動を習慣化させる強い意志、ほんの少しの成長をも感じる向上心、そして粘り強く努力することの意義理解などがなければ、生まれてこないと考える。

この時期の子ども達は、何事も好奇心を持って行い、やらなければならないことを素直に受け入れることが多いと言われている。反面、興味・関心のあることについては意欲的に取り組むものの、好き、楽しい等の感情で行動して、嫌なことやつまらないこと、苦しいことなどは避けたり、あきらめてしまったりしやすい傾向がある。さらに、先を見通したり目標を立てたりすることが難しい発達段階である。そこで、家族や教師による励ましや賞賛、適切な助言などを受けて、やるべきことをしっかりと行う経験を積み重ねることが重要である。そして、成就感や充実感を味わい、努力の価値に気付くことが、次の目標に向かって進む原動力となると考える。

以上のことから、この時期に目標を立て興味・関心を持って、粘り強く最後まで取り組む大切さについて学ぶことは、大変意義深いことと言える。

(2) 児童について

1年生の児童は、一人一人が自分のやるべきことにしっかりと取り組もうと、努力して学習している。みんなで励まし合ったり教え合ったりする場面もあり、できた時には喜び合う姿も見られる。学級には、様々な学習活動に対して意欲があり、挑戦してみよう、続けてみようとする気持ちを前面に出す児童もいるが、初めてのことや難しいと感じられることに対して、消極的になってしまい、行動に移すことができなくなる児童もいる。意欲の向上に支援が必要な児童に対しては、適宜声をかけ、自分でできるように見守り、たくさん褒めるようにしている。学習はもちろんのこと、給食や休み時間等学校生活全般において、できた喜びを一つ一つ積み重ね、できるところを少しずつ増やし広げている途中である。

一輪車乗りについては、1学期から挑戦しており、休み時間を中心に遊び、上手に乗ることができる子と、少し練習はしているがうまくできないままになってしまい、練習から遠ざかっている子がいる。

1学期を振り返り、頑張ったことについて作文を書いた時には、主に水遊びでのもぐりっこや運動会での全校リレー練習において、難しさや大変さを感じつつも、できた時の喜びが大きかったことや次への目標に向かって意欲を持っていることなどについて述べていた。

これらの実態から、物事を熱心に取り組めば成功するという理解に立って実践への意欲を喚起し、最後まで粘り強くやり遂げようとする心情を育てていきたいと考える。

(3) 資料について

資料「りょうくんと一りん車」は、自分で乗れるようになりたいと決めた主人公りょうくんが、困難にぶつかりながらも努力し、上達する姿が描かれている。りょうくんの、途中であきらめそうになった時の不安な気持ちから、友達の励ましに奮い立ち、くじけずに最後まで練習を頑張り抜いた喜びへと変わっていった出来事を通して、一生懸命努力することの大切さについて考えることができる資料である。

本資料の活用にあたっては、続けることの難しさを感じているりょうくんの気持ちに共感しつつも、諦めの気持ちから粘り強く頑張る気持ちに変化した理由について探っていく。友達の励ましによって力が湧き、最後までやり通し、遂にできた時の喜びをしっかりと想像して、ねらいとする価値に迫っていきたいと考える。

(4) 他の教育活動などとの関連

国語や算数の各単元の学習や運動会などの体験を通して、最後まで粘り強く努力し続けることの意義や達成感・成就感について適宜確かめ合うことをして積み重ねてきた。

6月の道徳の授業で資料「うかんだ うかんだ」において主人公の成就した喜びや自信について共感しながら、努力することのすばらしさを学んだ。そして7・8月は体育の授業において、主人公のように顔に水をつけたり、浮かんだりして頑張り、自信を持つことができた。今後も、各教科の学習はもちろん、学校行事であるマラソン大会、学習発表会及びなわとび大会が予定されており、体験活動を生かし、困難を乗り越えようとする強い意志について考えることができるように工夫をしていく。

4 資料分析図

主要場面	心の動き	気付かせたいこと	主な発問
りょうくんは、4年生が一輪車に乗っている姿に憧れて、練習を始めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・かっこいいなあ。 ・ぼくものれるようになるぞ。 ・れんしゅうをがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・憧れではなく、自分もできるようになりたいと自ら練習に取り組もうとする気持ち。 	○りょうくんは、なぜ一輪車の練習を始めたのですか。
りょうくんは、何度も転んで、足があざだらけになった。腕から血が出て、痛くて涙もでてきた。	<ul style="list-style-type: none"> ・一りん車は、むずかしい。できない。 ・4ねんせいみたいになるのは、やっぱりむりだ。あきらめよう。 ・一りん車なんてきらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習がつらくて、もう、4年生みたいにかっこよく乗ることができるようになるまで練習することは、無理だという思い。 	○足があざだらけ、腕から血が出てきたとき、りょうくんはどんな気持ちでしたか。
友達に「がんばれ。もうすこし。」と励まされた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ともだちがおうえんしてくれたことがうれしい。やってみよう。 ・ほんとうは、のれるようになりたい。じぶんできめたことだから、がんばりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つらくてやめたくなかった気持ちに負けず、頑張り続けようとする気持ち。 ・友達から見たりょうくんのよさ。 	○りょうくんが練習をやめなかったのは、なぜですか。
りょうくんは、1か月後、乗れるようになった。顔に当たった風がとても気持ちよかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしい。 ・くじけそうになったけど、がんばってよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困難なことを乗り越えて、嬉しい気持ちになっている。 	◎上手に乗れるようになったりょうくんは、どんな気持ちでしたか。

5 本時の指導

(1) ねらい

「一りん車にのることができるようになる」という目標に向かって、苦しくてもあきらめずに粘り強く頑張ったりりょうくんの気持ちに共感させることを通して、なりたい姿をはっきりと描き、あきらめずに取り組むことの意義に気付かせ、粘り強く最後まで努力し続けようとする気持ちを育てる。


(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問 (○)	期待する児童の反応 (・)	指導上の留意点 (*)
気づく 3分	1 学習や運動、遊びなどでもっと上手になりたいと思っていることについて考える。 ○上手になりたいことは何ですか。 ○なぜ上手になりたいと思ったのですか。 ○上手になるには、どうすればいいですか。	・けいさんがにがてだから、ただしくはやくできるようにする。そのためにれんしゅうをがんばる。 ・マラソンたいかいで1位になりたいから、はやくはしりたい。そのためにぎょうかんうんどうのとき、じぶんできめたかずのしゅうをはしる。	*上手にできるようになるには、どんなことをすればいいのか考えさせる。 *練習を続けられること、できなくてどうすればできるようになるか分からないことなど、児童の思いを聴く。
	がんばりつづけるには、どうしたらいいのだろう。		
深める	2 資料「りょうくんと一りん車」を読んで話し合う。 ○りょうくんは、なぜ一輪車の練習を始めたのですか。	・かっこいいなあ。 ・ぼくものれるようになりたい。 ・かいてんしたり、ジャンプしたりできるようにになりたい。	*自分もできるようになりたいと目標を持って自ら練習に取り組もうとする気持ちになったことに気付かせる。
	○足はあざだらけ、腕からは血が出てきたとき、りょうくんはどんな気持ちでしたか。	・一りん車は、むずかしい。できない。 ・4ねんせいみたいになるのは、やっぱりむりだ。あきらめよう。 ・一りん車なんてきらい。	*困難なことにあった気持ちを想像し、共感的に理解させる。
15分	○りょうくんが練習をやめなかったのは、なぜですか。	・できないとおもったけれど、ぜったいのれるようになりたいから。 ・あきらめようとかんがえたけれど、ともだちがおうえんしてくれるから、がんばろうとおもった。 ・ここまでできたから、もうすこしやってみよう。	*頑張り続けようとする気持ちに変化したきっかけを捉えさせる。 *励ましている友達の視点から、主人公の頑張りのよさに気付かせたい。
つかむ 7分	3 価値について話し合う。 ◎上手に乗れるようになったりょうくんは、どんな気持ちでしたか。	・とてもうれしい。 ・なんかいもころんで、いやになりそうだったけれども、やりつづけてよかった。 ・がんばってできるようになって、きもちがいい。 ・あきらめなくてよかった。 ・4ねんせいみたいにいるいろいろなわざにちょうせんしたい。	*できなかった時の気持ちと比較して考えさせる。
	○りょうくんが頑張り続けることができたのは、なぜだろう。		
	もくひょうをはっきりさせて、あきらめないところをもつ。		

<p>広げる 17分</p>	<p>4 自分の心の中にあるがんばりについて、ワークシートに書く。書いたことを交流し、友達のがんばりやあきらめない心について見つけ合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プールでだるまうきができるようにゆうきをだしてみずにかおをつけたら、できるようになってうれしかった。 ・にがてなたべものをたべるようにしたら、きゅうしょくをのこさずにたべることができるようになった。これからのものこさずたべたいとおもった。 ・マラソンたいかいで、1いを取りたい。そのためにくるしくてもおそくならないようにはしる。 	<ul style="list-style-type: none"> *がんばったことだけではなく、できたときの気持ちも想起させ、次の目標の意欲につなげさせたい。 *これからの目標について考える児童には、何を諦めずに努力するか考えさせる。
<p>まとめる 3分</p>	<p>5 教師から、一人一人の頑張りについて伝え、これからの様々な活動における意欲に繋ぐ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> *児童による自己評価と重なる内容については、具体的に頑張っていたことを伝えて、自他ともに再認識できるようにしたい。

(3) 板書計画

- ・あきらめないこころ
- ・もくひょうをはつきり






・がんばってよかった。
・きもちがいい。
・四ねんせいみたいになるぞ。

りょうくと一りんしゃ

・かっこいいなあ。
・のれるようになるぞ。

- ・おうえんしてくれて、うれしい。がんばろう。
- ・できるようにになりたい。
- ・あきらめない。

- ・できない。むり。
- ・もうやめよう。
- ・一りんしゃは、きらい。

がんばりつづけるには、どうしたらいいのだろう。